令和４年度
公益社団法人日本ホッケー協会

事業報告

空きページ

目次

令和4年度 総括 p 04

令和4年度 組織図 p 05

戦略統括本部 p 06

強化育成本部 p 07

事業本部 p 10

コーポレート本部 p 12

常設委員会 p 13

事務局 p 14

令和4年度 総括

・「スポーツ団体ガバナンスコード」に則り、理事会の規模の適正化と実効性の確保や組織の多様性の確保に配慮し、理事会及び組織体制を大幅に変更した。その結果、新体制の理事は17名、うち外部理事7名（41％）、女性理事7名（41％）となった。

・日本代表のさくらジャパンがスペイン/オランダで開催されたFIH女子ワールドカップに6大会連続で、サムライジャパンがインドで開催されたFIH男子ワールドカップに4大会ぶりに出場した。
成績は女子は11位、男子は15位であった。

・5月にアリーナ・ドーム立飛で“インドアホッケーフェスティバル”を開催。
日本におけるインドアホッケーの幕開け宣言を行い、普及と強化に着手した。

・6月に大井ホッケー競技場がオリンピック後の改修工事を終えて再開業した。
全国スポーツ少年団ホッケー交流大会や男女の全日本選手権大会など主要な全国大会を開催し、東京2020大会のレガシーとしての積極的活用を進めた。
また、2022年3月に品川区との間で締結したオフィシャル社会共創パートナー協定に基づき、大井ホッケー競技場の周辺地域との一層の連携強化を推進した。

・8月にはオーストラリア（男子）とアルゼンチン（女子）を招聘して“SOMPO JAPAN CUP”　を有観客で開催した。また、10月には世界12カ国、27チームが参加する “WMHマスターズ・ワールド・カップ”を開催。60歳以上の国内外の選手ら800人が生涯スポーツとしてのホッケーを楽しみ、国際交流の輪を広げるとともに、大井ホッケー競技場のアピールにも貢献した。

・JHAの中長期計画である“Japan Hockey Road to 2030”の象徴的な事業として、2030年のワールドカップ招致に向けた準備活動を開始した。

公益社団法人日本ホッケー協会　組織図

2023.3.22

- 本部/部：日常の業務執行を行う
- 委員会：組織横断的に特定のテーマに関する情報収集・議論・提言を行う
- 会長は法律上の代表理事として業務執行権限を有する
- 副会長・専務理事及び　常務理事をもって法律上の業務執行理事とする。

総会

監事

理事会

代表理事
業務執行理事
理事

（特別委員会）

倫理委員会

役員候補者選考委員会

業務執行理事会

会長、副会長、専務理事、本部長+事務局長

（凡例）Road to 2030における重点施策）

戦略統括本部 ②組織 ③ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ） ⑤財源	**経営企画部**		Road to 2030の推進及び進捗管理 事業戦略の企画・立案、法人運営 総務、組織設計、ガバナンスコード対応 人材開発（次世代リーダー会議他）
	財務総括部		決算予算作成、予実管理、財源多様化
	マーケティング部		パートナーシップ推進 （スポンサー、サプライヤー）
	関連団体統括部		都道府県協会、スポ少・中学校・高体連・学連・社会人・マスターズ・HJL等
	デジタル推進部		業務・広報等の各種デジタル推進
強化育成本部 ①強化 ⑧レガシー（OHS）	**男子ハイパフォーマンス部**	**女子ハイパフォーマンス部**	シニア代表強化（パリ五輪までを中心に）
	アンダーカテゴリー強化育成部		アンダーカテゴリー（U21/18/15）育成 パスウェイ開発（J-STAR、アカデミー）
	指導者育成部		一貫指導体制構築・指導者底上げ
	テクノロジー＆ディベロップメント部		テクニカル（ホッケー技術研究） 医科学情報、NTC
事業本部 ④事業 ⑧レガシー(大会運営ﾉｳﾊｳ) ⑥普及	**競技運営部**		競技会設計・運営 審判・競技役員育成
	イベントマネジメント部		大会運営（主にピッチ外）、インドア大会再設計、ボランティア組織運営
	ホッケーファミリー未来部		ホッケーファミリー増加策、夢見るホッケー教室 オリンピックムーブメント推進
コーポレート本部 ③ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙ） ⑨2030WC招致開催	**広報部**		メディア対応、HP・SNS活用 映像写真素材管理、イヤーブック・カレンダー製作
	国際部		IF/AF対応、国際交流、 海外選手指導者派遣招聘
	法務・コンプライアンス推進部		規程規約整備、コンプライアンス推進

事務局

定型業務

経理、総務・庶務、危機管理
文書管理、登録DB管理
理事会/業務執行理事会運営補佐
合宿遠征手配等、会計処理支援

本部・委員会の支援業務

戦略統括本部
強化育成本部
事業本部
コーポレート本部　支援担当

常設委員会

⑦社会貢献（SDGs、ユニセフ、国際交流）

⑧レガシー（ｾｶﾝﾄﾞｷｬﾘｱ）

アンチドーピング・インテグリティ委員会	**社会共創委員会**	**アスリート委員会**	**コンプライアンス委員会**

戦略統括本部

【総括】

・新体制のもと、ガバナンスコードの遵守状況を確認し、一層の遵守に注力。
・JSCから新規財源を獲得して、経理・労務等の事務局業務の課題を整理し、業務の効率化・合理化を促進。
・事務局職員の処遇改善や協会内部の各種規程を整備。
・Road to 2030の推進を図るとともに、2030年WC招致に向けて準備活動を開始。
・第１回次世代リーダーズ会議を開催し、人材の発掘と育成に着手（18名参加）。

	R4年度活動内容	結果
経営企画部	• JSC組織基盤強化事業の申請及び管理 • ガバナンスコード尊守状況の報告 • 次世代リーダーズ会議の企画・運営・実行 • 全国サーベイの実施・分析・レポート • 事務局員の給与体系の見直し	• 新規財源獲得による新規事業の推進 • ガバナンスコードの遵守 • 若手リーダーの育成及び次年度事業への人材確保 • サーベイ実施による現時点での位置づけ把握
財務統括部	• 経理・労務業務のIT化及びアウトソーシング化による業務効率化 • 経理規程をはじめ規程類の改定及び新規制定	• 辻・本郷税理士法人への業務委託開始 • 経理規程等の改定 • 消費税のインボイス方式開始準備、電子帳簿保存法対応
マーケティング部	• メインスポンサーである損保ジャパンとの連携強化 • 複数のスポンサーとの間の契約継続交渉 • 大井ホッケー競技場の再開業をきっかけとする地域連携の推進	• 新たな施策の実施（SOMPO JAPAN CUPの開催、CM制作への代表選手出演、夢見るホッケー教室の共同開催、高校選抜大会でのライブ配信・ドキュメント番組制作など） • 髙島屋、キッコーマンとのスポンサー契約が終了 • 大井での各種大会や代表チームへの支援ムーブメントの醸成
関連団体統括部	• 加盟団体規程の新設（3月）	• JHAと加盟団体との関係が規定され、連携・協力関係が明確化された
デジタル推進部	• 事務局業務における課題やシステム課題を整理し、システム化を推進する業務範囲の整理やプロセスの見直しを実施	• 事務局の経理周りの業務をマニュアル化する中で課題整理を実施 • 決裁に関するワークフローや予実管理の早期化を目指すための各種業務プロセスのみ直しを実施 • 登録システムの次年度に向けた修正事項の整理 • デジタルマーケティング推進における課題整理

強化育成本部

【総括】
新組織となり、ジュニアの育成と一貫指導体制の構築を課題として取り組んできた。男女シニアは、ワールドカップアベック出場を果たしたことが大きな成果であった。結果は、男子が16チーム中15位、女子が11位と入賞できず残念な結果であった。ジュニアは、女子U21がオーストラリアと対戦して、3勝1分と将来に繋がる好結果を残した。男子は、U21がジョホールカップで6チーム中4位であった。指導者育成部とテクノロジー＆デベロップメント部は、新たに加わった部として、道筋をつけるべく組織づくりができたので、次年度は活動実績を積んでいきたい。

男子 ハイパフォーマンス部

- ランキング：19位(過去最高位15位　Nations Cup時点)
- 海外遠征6回（合計98日）
- 国内合宿10回（合計92日）

東京オリンピック後、ワールドカップ出場を目標に活動を行い、見事出場権を獲得した。男子として16年ぶりの出場を果たした。結果は最下位であったが、今後に向けての課題が明確になった。以下、海外遠征の報告である。

- **韓国遠征**(8日間)
- **第11回 Hero アジアカップ** (2022/5/23-6/1、尼・ジャカルタ）4位/8チーム
- **第29回 スルタン アズランシャーカッププ** (2022/11/13-10、馬・イポー） 4位/6チーム
- **第1回 FIH ネーションズカップ**（2022/1/28-12/4、 南阿・ﾎﾟﾁｪﾌｽﾄﾙｰﾑ） 6位/8チーム
- **スペイン７か国大会**(2022/12/11-22、西・サンフェルナンド) 5位/7チーム
- **第15回 FIH 男子ワールドカップ**(2023/1/3-29、印・ﾌﾞﾊﾞﾈｰｼｭﾜﾙ・ﾙｰﾙｹﾗ) 15位/16チーム

女子 ハイパフォーマンス部

- ランキング：11位（年度当初14位）
- 海外遠征４回（合計62日）
- 国内合宿４回（合計41日）

ワールドカップを含めて4回の海外遠征を行い、成果を上げることができた。男子との海外遠征回数に差があるが、女子は昨年度（一昨年12月、昨年1月）にアジアCT、アジアカップに参加したため、本年度分に差が出ている。以下、海外遠征の報告である。

- **アイルランド遠征** (2022/6/10-20)（5戦4勝1敗）
- **第15回 FIH 女子ワールドカップ**(2022/6/30-7/19、西・テラサ/オランダ）11位/16チーム
- **韓国遠征**（８日間）
- **第1回 FIH ネーションズ カップ**　(2022/12/11-1、西・バレンシア）3位/8チーム

アンダーカテゴリー 強化育成部

- 海外遠征3回（合計26日）
- 国内合宿12回（合計55日）
- 選考会14回（合計36日）

- U15: コロナの影響により海外遠征(豪)を断念。その代替えとして国内（滋賀県米原市、2022/12/3-4)にてU15(男女)ジュニアユース「オールスター戦」を開催
- U18: 日韓交流事業の中止、海外遠征(男子・豪、女子・蘭)を断念。U21合同合宿を実施し競技力向上を図った。U17男子ユース日本代表は「第1回NHOPミルナワンカップ2022/クアラルンプール」に参加（8チーム中2位）と将来に繋がる好結果を残した
- U21: （男子）「第10回ｽﾙﾀﾝｼﾞｮﾎｰﾙｶｯﾌﾟ 2022/ｼﾞｮﾎｰﾙﾊﾞﾙ・ﾏﾚｰｼｱ」に参加（4位/6ﾁｰﾑ）。（女子）ｼﾞｭﾆｱｱｼﾞｱｶｯﾌﾟ開催が延期。国内合宿(7回)を実施しチーム強化を図った。2023/2に豪遠征を実施。豪代表と4回テストマッチを実施(３勝1分)

#HWC2023
WWW.WORLDCUPHOCKEY

Belfius

#HWC2023
WWW.WORLDCUPHOCKEY

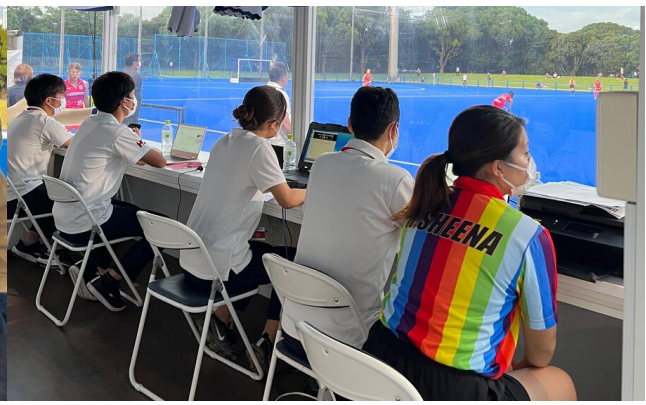
◆指導者育成部

令和4年度より指導者育成部ACD（Advanced Coaching Development）は、全国大会出場レベル以上（コーチ3、4レベル）のコーチを対象に、「量」＝資格者の確保と「質」＝資格者のコーチングレベルの向上を目的として部門を新設した。初年度は、部の方針策定とメンバーの編成を中心に活動をスタートし、11月に一堂に会して本格的な活動を開始。JSPO公認コーチの養成講習会の継続実施などを行った。

R4年度活動内容	結果
新規部門につき、立ち上げに伴うメンバーの編成および拡充 • コーチライセンスグループ JSPO公認コーチ3養成講習会の実施 JSPO公認コーチ4養成講習会の実施 • コーチデベロップメントグループ ACDカンファレンス（仮称）の内容検討	部門として10名のメンバーを編成 コーチライセンスグループ コーチ3：新たに37名の専門科目の修了を認定 コーチ4：新たに11名の専門科目の修了を認定 コーチデベロップメントグループ ACDカンファレンスの2023年度の開催計画、内容についての概要を決定

◆テクノロジー＆ディベロップメント部

R4年度活動内容	結果
部内のグループ別に下記の活動を行った • FTEMグループ • FTEM研修会への参加 • 医事グループ • メンバーの選定 • フィジオグループ • メンバーの選定 • 情報分析グループ • メンバーの選定 • スポーツアナリスト研修会の実施（JSC組織基盤強化事業）	• FTEMグループ • ハイパフォーマンスセンター主催の研修会に参加。今後のホッケー競技における一貫指導体制システムづくりの方向性について学んだ • 医事グループ • 今後の男女日本代表シニアチームサポート体制構築に向けて検討した • フィジオグループ • 各種大会並びに強化合宿におけるフィジオサポート体制について検討 • 情報分析グループ • 日本リーグ女子決勝・三位決定戦を題材にし、スポーツアナリスト研修会を実施。参加者は全国より18名（初年度対象者は監督・コーチ）



事業本部

【総括】
2022年度各大会において競技運営を十分に果たした。2020東京オリンピック後の国際大会への派遣も充実され、今後は将来に向けての競技役員確保が求められる。「U12育成G」「Yume Project G」を新設し、ジュニアの普及育成が今後楽しみである。
また、長年の課題であったインドアホッケーの普及・強化に着手。今後各地域でインドア普及が高まることに期待。更に2020東京のレガシーとして大井の維持活用に努めた。

◆競技運営部

R4年度活動内容	結果
1. 競技役員の派遣と充実した競技運営 2. 全国ルール統一研修会の開催	1. 主催・共催する大会及びブロック大会へ競技役員を派遣。新型コロナ感染症防止対策を図り予定されたすべての大会を円滑に実施。また、国際大会へも競技役員を派遣し十分に成果をあげた 2. 研修会をシーズン開始前に開催し、全国のホッケー関係者に対し競技規則、競技運営規程等について共通の理解・解釈を図り、スムーズな大会運営を行えた

◆ホッケーファミリー未来部

R4年度活動内容	結果
• 全国スポーツ少年団大会(2022/8/12-14）@大井ホッケー競技場 • U12ホッケードリームキャンプ（2022/12/3-4）@グリーンランドみずほホッケー場 • U12ホッケーオールスター戦(2022/3/4-5）@大井ホッケー競技場 • 夢見るホッケー教室: 22回実施、参加者2,170人（延べ） • YouTube「トミさんコーチング」配信（月2回配信）	• 子どもたちにホッケーの楽しさを伝え、将来の日本代表を夢見る選手の育成を目指して取組を進めた • 「夢見るホッケー教室」では、ホッケー教室を全国での開催を目指し、計22カ所にて実施 • U12ホッケードリームキャンプ及びU12ホッケーオールスター戦は、日本代表を夢見る選手の育成につながっている

◆イベントマネジメント部

R4年度活動内容	結果
• インドアホッケーの認知確立、普及に向け、フェスティバルを開催。 • 国際大会開催による東京2020レガシーの活用とノウハウ維持向上を実施 • 2023年マーシャルアーツ大会出場を目標として代表チーム組成、活動開始。	• インドアの認知、プレゼンス向上と共に新たなホッケーファミリーの獲得を目標としてインドアホッケーフェスティバルを開催した。 • インドア日本代表チームのヘッドコーチ公募、代表候補選手選考会の開催を経て、代表チーム活動を始動。

【実施イベント報告】

①インドアホッケーフェスティバル2022～日本での幕開けイベント～

実施日：2022年5月4，5日
開催場所：アリーナ・ドーム立川立飛（立川市）
U12、マスターズチームによるカップ戦、代表クラス選手によるエキシビションマッチ、ロッチ中岡さん、AKB湯本亜美さん他によるトークショー、来場者参加型アクティビティなどのコンテンツのフェスティバル形式で日本初のインドアホッケーイベントを開催。ホッケーになじみの無かった一般層の来場者もいる中で日本のインドアホッケーの幕開けを宣言した。

②SOMPO JAPAN CUP

実施日:2022年8月27、28日
場所：大井ホッケー競技場、しながわホッケーファンゾーン
強豪国の男子オーストラリア、女子アルゼンチンとのカップ戦を東京 2020 大会のレガシーとして開催。しながわホッケーファンゾーンや大井競馬の冠レースの開催など、地域の協力と連携をより強化しての開催となった。2日間で2900人の来場があり、その応援により、日本代表チームの健闘が光った。

③第2回立川立飛インドアホッケーフェスティバル

実施日：2023年3月4，5日
開催場所：ドーム立川立飛（立川市）
U15男子、女子によるカップ戦を実施。インドア日本代表選手による特別コーチング、夢見るホッケー教室も同時開催し、熱戦が繰りひろげられた。

コーポレート本部

【総括】

協会およびホッケーの社会的信用と存在価値を高め、協会運営および2030年W杯招致に向けた基盤づくりに貢献することを本部の方針として、2022年度の活動を行ってきた。メディアや海外要人との関係深化、ガバナンスの強化等、方針に則った、今後につながる組織基盤の構築を進めることができた。人的リソースの一層の充実により、次年度以降も意欲的に取組みを行っていく。

	R4年度活動内容	結果
広報部	• JHA HPでの情報発信 • ハラスメント研修での講演 • 代表チーム記者発表 • 全日本選手権等でのメディアセンター運営 • 2023カレンダーの制作 • 男子W杯等の大会撮影 • 解説者育成事業の立ち上げ	• 迅速で正確な情報発信 • メディアとの関係強化 • 大会記録のアーカイブ
国際部	• AHF幹部会議（6月タイ） • アジアカップでの活動、会談（6月インドネシア） • WC視察、FIH専務理事他会談、情報交換（7月スペイン） • インドア情報交換（8月タイ） • OCA総会（10月カンボジア） • FIH総会、理事選安西理事選出（11月） • FIH会長来日対応（3月）	• アジア内での大会において、FIH,AHF幹部との接触を積極的に図り、関係性の維持向上を行った • 2030WCに向け、WC視察、情報収集と共に、FIH幹部へ日本の考え方の刷り込みを実施 • FIH総会での理事選にて日本より安西理事の選出を実現 • FIH会長の来日にあわせ、意見交換、関係性向上を図った
コンプライアンス推進部	• コンプライアンス委員会規程の新設（8月） • 利益相反管理規程の新設（10月） • コンプライアンス委員会開催（計6回）	• 各種規程の新設による、ガバナンスの強化

常設委員会

◆AD・インテグリティ委員会

R4年度活動内容	結果
• インテグリティ・アンチドーピング教育を充実 • （公財）日本アンチドーピング機構（JADA）及び国際ホッケー連盟（FIH）と緊密に連絡を取り、アンチドーピングの周知徹底を図り、居場所情報や合宿時における講習会等を実施して、選手指導者に協力と義務を認識 • （公財）日本アンチドーピング機構（JADA）の指導の下、国内における国際大会並びに国内主要大会においてドーピング検査を実施 • 指導者にドーピング検査への協力徹底と、国内のドーピングコントロールオフィサー（DCO）の養成	• JOCインテグリティオフィサーと最新情報を共有 • 大会時AD資料配布。全国指導者研修会でAD・インテグリティの最新情報をサポートスタッフを対象にアスリート委員会と協働で講義を実施 • JADAと情報を共有し、ICTはRTP/TP選手との連絡をサポートスタッフ通じて密にしADEL等受講・ADAMSによる居場所情報登録やJADA資料配布による啓発を行い、OOCTはHJL/全日本選手権大会の選手・サポートスタッフの周知を図りJADA検査実施に協力 • アスリート委員会とともに承認Educator向け候補講習会を受講。他のレベル競技者に資料を配布 • FIH/国内他競技のAD関係ホームページを調査

◆社会共創委員会

R4年度活動内容	結果
しながわホッケーファンゾーン2022の開催 ＊しながわほけーファンゾーン委員会 2022.6　大井ホッケー場再開業イベント協力 サムライジャパン商店街訪問 8　全国スポーツ少年団交流戦、 SOMPO JAPAN CUP×ホッケー応援 イベント in 大井競馬場 10　マスターズ応援 2022/7, 2023.1　ホームタウン活動 （フリークス東京、東京ヴェルディ）	• 「ホッケー」をキーワードにALL品川として連携することができた（品川区、自治会、企業等） • ファンゾーン：3,000名来場 • 商店街：2日間に分け8か所を訪問 • 全国ｽﾎﾟｰﾂ少年団交流戦：来場者3,000名 • SOMPO JAPAN CUP×ホッケー応援イベント in 大井競馬場」：5,000名 • 大井競馬冠名レース開催「ホッケータウン賞 しながわホッケーファンゾーン開催」

◆アスリート委員会

R4年度活動内容	結果
• JOCアスリート委員会に2回参加（9月、3月） • 副委員長の選定 　• 副委員長2名枠のうち1名決定 　• アドバイザー1名を任命 • 幹部会議実施 • AD/インテグリティ委員会との連携	• 副委員長：渡邉 徹 氏（もう1名は交渉中） • アドバイザー：田村 洋二 氏（広島県体育協会副会長） 　• 広島県の地域スポーツにおける活動や普及方法などを参考にするためアドバイザーとして依頼

◆コンプライアンス委員会

R4年度活動内容	結果
• 2022/8　理事会でコンプライアンス委員会規程を承認 • 定例委員会は年に2回以上（半期ごとに1回以上）、臨時委員会は随時開催することを決定	• 2022/9月までに、臨時委員会を6回開催。論議事項、内容について理事会に報告

事務局

R4年度活動内容	結果
• 事務局体制の再構築 • 業務効率の向上 • スムーズな会議運営	• 理事1名の常勤化 • 経営管理分野に強い事務局員の増員 • クラウド会計の導入等によるリモートワークの更なる推進 • 事務局員の子育て支援 • 開かれた事務局として、多くの方が事務局に足を運んで頂ける雰囲気作り

空きページ

JAPAN HOCKEY ASSOCIATION

CONTACT

公益社団法人 日本ホッケー協会
〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square
TEL: 03-6812-9200
FAX: 03-6812-9210